

博士論文

デートDVのリスク要因に関する研究

2018年度

昭和学院短期大学  
人間生活学科 こども発達専攻

松野 真

## 論文概要

本研究は、デート DV の実態調査に基づき、DV とデート DV の差異とデート DV 加害経験者の特性について明らかにし、その上でデート DV の加害信念の歪みとデート DV との関連を検討しながら、デート DV の認知的なプロセスについて明らかにすることを目的とした。主な研究方法は、大学生の男女を対象とした質問紙調査である。

研究 1 では、加害経験頻度と被害経験頻度の性差では、男性においても被害経験をしている可能性が示唆され、デート DV の加害・被害の双方向性を支持する結果であった。

研究 2 は、デート DV の双方向性の観点から検討をおこない、デート DV の加害経験群にはデート DV の双方向性群と一方的なデート DV 加害経験者群の 2 群があることが示唆された。また、この 2 群間では、性差による特徴と男女に共通する特徴が示された。今後展開されるデート DV 加害者教育プログラムでは、2 群間の性差の特徴や共通する特徴を踏まえ、デート DV 加害者教育プログラムを実施する必要性が示唆された。

研究 3 では、デート DV の評価指標として、新たにデート DV の加害深刻度及びパートナーコントロールに関する質問紙の作成を試みた。また、これまでデート DV を身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力と分類したが、デート DV 被害者の視点から評価した被害ダメージを用いることで、デート DV が「暴力」、「監視」、「性的強要」、「人格否定」、「不利益の強要」の 5 因子で構成されることが示唆された。

研究 4 では、「デート DV 加害信念の歪み尺度」を作成した。デート DV 加害信念の歪みが、「自己の絶対視」、「過剰な受容へのとらわれ」、「偏った攻撃観」、「女性本位のジェンダー観」、「男性本位のジェンダー観」の

5 下位尺度で構成されていることが示唆された。この結果によりデート DV 加害経験者の加害信念の歪みの特徴を示すことができたとともに、一次予防や二次予防において、デート DV の加害経験をスクリーニングする道具として利用し、さらには、再発防止を目的とした三次予防へつなげる可能性が示唆された。

研究 5 では、デート DV の認知的プロセスについて、付き合い経験あり群と付き合い経験なし群の性差を比較しながら検討した。付き合いあり男性群は、「パートナーコントロールが強い→デート DV 加害信念の歪みが強くなる→デート DV」の経路 1 と、「パートナーコントロールが強い→デート DV」の経路 2 の 2 経路が示された。付き合いあり女性群では、男性と同様に経路 1 はみられたが、経路 2 は見られずに新たに経路 3 として、「パートナーコントロールが強い→デート DV 加害信念の歪みが強くなる→被害ダメージが低くなる→デート DV」が示された。

本研究の課題と展望として、今後は、三次予防の対象となるデート DV 加害者を対象に、臨床研究の枠組みの中でデート DV 加害者の特徴を検討し、本研究の結果と比較検討すること、また、デート DV と DV の連続性について検討し、暴力が双方向から一方向に移行する要因について検討する必要があると考える。